

第3回学校運営部会 議事録

(1)日 時：令和4年7月21日（木）午後7時より、（教育会館 第4研修室）

(2)参加者：委員（8名）（1名欠席）、事務局6名

(3)内 容

①部会長あいさつ

②資料説明及び意見交換

・新中学校の学校像（素案）について

・特別教棟（案）について

・新中学校校舎（案）について

《部会長あいさつ》（省略）

《資料説明及び意見交換》

（新中学校の学校像（素案）について）

部会長 ・レジメに従って会を進めていきたいと思う。まず新中学校の学校像について事務局から説明をお願いしたい。

事務局 ・新中学校の学校像（素案）について説明

1. 新中学校が目指す教育

2. 学校づくりの基本理念 目指す学校像

3. 目指す生徒像 3つのC

4. 連携型中高一貫教育の推進

（1）ねらい、（2）期待される効果、（3）新中学校における特色ある教育内容

・これまでのワーキングチーム会議での意見抜粋（第3.4.5回）

部会長 ・最初の目指す学校像について付け加えなければいけないものとか、ここを変えた方がいいということについて皆さんのご意見を伺えればと思う。

委員1 ・市PTA連合会の会議があって、会員の中には賛成の方も反対の方もいるので中立の立場で専門部会や準備委員会には意見を言うことでご理解をお願いしたい。会議では、中学校の魅力向上について一生懸命考えていただいているのは非常にありがたい。そこから勝高に連携していく中で、勝山高校の魅力向上についても進めていただきたい。そうであればより積極的に賛成できるという意見があった。事前にお伝えして案をみていただければと思う。

部会長 ・勝山高校の魅力も高めていかないと効果が出ないのではないかという意見。中学校像にどう入れ込むかは工夫があるが、中高の2つを接続する学校として高校側に対して魅力をどう発展させていくのかを入れ込むことができるのではないか。

委員2 ・もちろん県立学校として魅力化に取り組んでいる。こういう会の中でいろんなご意見をいただくことによってさらに魅力アップが図られると思う。令和9年が目途になっているので、そこに向けて勝山高校としても中学校の生徒の皆さん、市民の皆さんに選ばれる学校にならないといけないという気持ちで頑張りたい。

部会長 ・地域の高校として当然勝山高校も魅力を向上させたい。勝山高校の学校像と

もリンクするような形になるかもしれない。同じ地域の中学校と高校がどんな学校を目指していくのか。設置者は違うが、地域の中高としての目指す学校像のすり合わせみたいなものが必要になってくる。そういうことまで発展させられる可能性があると思うので、こういうご意見を大切に受け止めて検討していきたい。

委員 3 ・中学校の子どもたちの出口を考えたときに、もちろん勝山高校が魅力ある学校になっていただくということは重要だが、職業の学校を選択する子もいるし、特別支援が必要な子もいる。単に勝山高校だけに一点集中というわけではないので地域全体を考えた方がいい。今力を入れているのは小中連携である。実際に中学校の部活動での大会を見ると、スポーツ関係では小学校の時にある程度力をつけてきた子がそのまま中学校につながって、1、2年生の段階でほぼ県を制覇してしまう。というような状況が強くなっているような傾向を感じている。中高の連携も大事だが小中高で勝山の子をどう育てていくのかという方針を明確にして、一人一人の個性とか特性を力いっぱい伸ばすそのベースを作る学校なんだという像が1つあるといいのではないか。ここに居れば子どもはきちんと育つ、それもそれぞれの道でトップクラスに育っていく学校だという教育体制。小学校から中学校につながってさらに高校につながって出ていく時にはいろんな面で活躍している子が生まれてくる。そういう基礎を作る学校である。そのようなものを像に加えていただけるといい。

部会長 ・新中学校を要として小と中、中と高が連携し、高校も勝高のみならず職業系の高校も特別支援学校も含めて様々な高校に進学する子どもたちが最高の力を発揮するための特色ある中学校を作るんだということを書き込めるといいという意見だった。勝山の子どもたちをどう育てるのか、これは教育委員会の方針そのものにもなっていくのだろうが、あえてこの新しい中学校に表明できるような形になるといいのではないか。新中学校が勝山の子どもたちの新しい力を発揮する大きな鍵を握っている場所だと表現できるのではないか。子どもたちが切磋琢磨しながら新しい自分の道を切り開いていく学校がここにあると言いたい。小中高の一貫性の連続の中でのこの新しい中学校の魅力とか役割とかを明確に表せるといい。一度事務局に戻すという形で次に進めたい。

次に連携型中高一貫のあり方についてはどうか。勝山型として中高一貫のメリットを子どもたち全てに受けられるような仕組みを作りたいという提案もあったが。

委員 3 ・ワーキングの中学校のメンバーからは中学校の3年間の学校生活を送るうえで福井型のように途中で分断するのはあまりのぞまないという意見だった。現状は1年生でクラスを作って1年間を過ごした状況を見て2年生で新しいクラスを作って2、3年という1つのクラスのまとまりのなかで、いろんな思い出を作ってそれぞれに旅立っていくという流れ。もし連携クラスにすると3年生でもう一度クラス替えをしなければいけない。そこに子どもたちはなんとなくギャップが生まれるというか、あの子らと違うしみたいな感じのものが出来るのは、中学校の教員としてはあまり望ましくないという

	<p>ことだった。そういう意味では、3年間一緒に生活していくのだが、最後のところで地元の高校を選択する子には何らかの形で進学できるようにして、すべての子どもたちが同等に高校の先生方とか中学校と高校の教員が協力した授業の恩恵を受けられることは非常にありがたいという意見だった。この連携がどの子にも恩恵が平等にいくような形でシステムを作っていたらとありがたいということだった。</p>
委員 4	<ul style="list-style-type: none"> ・現実には、高校の先生の持ち時間がある。連携するからといっても教員の増員はないのではないかと。実際にどのくらいかの目途が示せた方が具体化してくるのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在3地域は県の加配教員が入っている。特に今年の芦原中学校と金津中学校に関しては3年の連携クラスの数学に週4時間全部入っている。英語は1時間。もちろん約束はできないが、県に対して例えば10時間つけてほしいと要望はできるししていただけたらと思っている。もし数学で10時間勝高についたら、中学校3年生5クラスに対して週1時間1クラスずつTTで授業に行き、残りの5時間は勝高の数学に行くことができ両方の負担が減るようになる。
委員 5	<ul style="list-style-type: none"> ・そのようにお願いすることによって高校の先生の数が増えるメリットがある場合もある。今は県にお願いして増やしてもらえたらなと思っているし、中学校に行く時間数が他の地域に比べると減るといった可能性はあるかもしれないが今の実績なみにはつけていただけたら考える。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫の校長をしている。他のところは学校と隣接していないので移動に30分か1時間かかってしまう。そうすると1人の数学の先生に1時間の授業を入れようとすると3時間分の加配を入れられないとできない。しかし勝高と新中学校は隣接しているから10時間もらえればそのまま10時間になる。つまりほかの連携校の加配と同じようにももらえれば非常に手厚い入り方ができる可能性がある。もちろんこれは県との相談だし、これからの問題になると思うが、隣接しているの先生方の移動時間対応がカットできて中学校の方にメリットが活かせるのではないかと。具体的にシミュレーションしないとわからないが、全部のクラスに入ってもらって可能性は充分あるのではないかと。
委員 6	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうメリットも資料に入れると隣接する値打ちが出てくる。
委員 7	<ul style="list-style-type: none"> ・期待される効果のところ「連携カリキュラム等による基礎的・基本的な学習を通じて、確かな学力を身につけることができる」と書いてあるが、先生方でより細かく見ることができるということか。高校の先生に教えていただくと勉強が得意の子らは伸びるのかなと思うが、勉強が大変な子らにとってより高校の先生が難しいことを教えることが学力アップにつながるのか、学習の喜びにつながっていくのか。連携カリキュラムだと学力が上がるという説得力が弱い。個別に見ていただきたいとか手厚い支援をのぞまれると思う。手厚く見ることができるとかきめ細やかな支援ができますという言葉があるといい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・期待される効果は確かにご指摘のことがわかるような表現が必要だと感じた。高校の先生が行って発展的な学習というイメージは学習の得意な子を

伸ばすように思うが、興味関心を伸ばす授業であっていいし、いきなり高校の問題をさせるということではない。生徒の様子を見ながらやっていくことが大事。連携クラスだとある程度の希望の子が集まっていて割と学力層も狭いのでより発展的なことができるというメリットもある。しかし、そうではなくてみんなが学習に興味を持つような動機付けもしながら進めていく。誤解が生まれるかもしれないので表現を考えたい。

部会長 ・具体的に私がいた学校では、中学校の先生と高校の先生がTTで入るので、例えば高校の先生に学習の得意な子の方をアシストしてもらって、中学校の担任の先生は授業を進めて手厚く支援する。つまりTTで2人の先生が入って高校と中学校が役割分担しながら、幅広い学力層に対応できるような授業を実際に連携型の中学校でも組んでいる。この新しい中学校では、例えば5人の高校の先生が入ってくだされば、中学校の5人の数学とで10人のチームが3年生にTTで入っていくことができる。こういう考え方をすると基礎とか基本のところを丁寧にできるし、発展的なところも見ることができる。具対的なことをイメージできるような説明というか書き方を検討していただきたい。中高一貫のメリットというのはどうしても先取りとか高校の先生が引っ張るところばかりに目が行くが、結果としては中学校のつまずいている子どもたちの丁寧な指導に活かされているという部分もある。4年間そういうところの校長をしていたので現実を見てきて確かにその効果は出てきている。

委員8 ・TTの授業をするということは打ち合わせが必要になる。毎週1時間、数学の教員はT1、T2としてしっかり打ち合わせをしてその授業に臨む。教員が増えて楽になるという話だったが、本当に楽になるのかが心配。

委員9 ・TTのやり方もあるが、数学の話題の中でも高校の先生に教えてもらった方がわかりやすいものもある。中学3年生の数学の指導の中で、一年間の流れをある程度作ることによってカバーできると思う。最初は確かにどうやってやっていくのかは時間がかかるかもしれないが、先進事例の福井型があるので、参考にしながらやっていく。もちろん高校の先生と中学校の先生が相談するようにしないといけないと思う。

事務局 ・始めていれる仕組みだから心配は当然ある。全く負担がないかということ最初はあと思う。ただ0から作るものではなくてはなくて先進事例もたくさんあったり、指導計画ができていたりする部分もある。工夫しながら負担のあまりないように進めていくことが大事。

部会長 ・教科会をするために学校に行かなければいけないので1時間の加配をもらっていたりする。隣接しているとその時間を時間割の中でうまく組み込めば、もっと活かすことができる。附属が小学校、中学校で時間割を揃えて教科会を一緒にやれるようにしたので非常にメリットが出てくる。近接しているから先生方の異動の時間がほとんど0になって先生方のコミュニケーションも取りやすいというメリットは活かせるのではないかな。すべての子どもたちにこの中高一貫のメリットが活かせるという具体的な文章表現にするのではないかな。

委員10 ・勉強は積極的にする方ではなかったもので、そういう子らがくいつくように仕向けられたらいいのではないかな。

部会長	・子どもたちにも保護者の方にもメリットが感じられるような形に表現を工夫していく。
委員 11	・「高校教職員により、わかりやすい授業を受けることができる」とあるが、今までの授業はわかりにくいのかと思ってしまう。お互いの質が向上するか、指導力が向上するとかにするとどうか。
事務局	・表現の問題として考えたい。
部会長	・高校の先生のほうが実は勉強になるのかもしれない。中学校でどんな教え方しているんだとか、中学校の子どもたちが今どういうふうな学び方をしているのかを知らずに高校に入ってくる。
委員 12	・総合的な学習の時間のことだが、今、小学校ではふるさと学習をどの学校でもやっている。勝山全体のことも学んでいる学校が多い。かつやまプロジェクト（仮称）とあり内容を見ると広がってはいるが、また勝山かみたいな、小学校でもやったのに、中学3年間で勝山のことしかしないのか。というイメージを受ける。総合は学年の教員がやりたいという事も入ってきたりする。ふるさと勝山が核になっているが、小学校の総合的な学習から高校での探究学習につながっていくような広がりがある総合をします。みたいな書き方があるといい。キャリア教育の中に勝山のことも入ってくるので総合的な学習とキャリア教育を分けた方がいいのではないかな。
部会長	・では、ワーキングチーム会議でも検討していただき、子どもたちや保護者に対して具体的にイメージが持てるような、どんなメリットがここに発生するのか。子どもたちが期待が持てるようなワクワク感のあるような何か表現に仕上げたいといいなと思う。 (特別教棟（案）について)
部会長	・次に学校の特色づくりのところに関係する部分として施設の話に入りたい。特別教棟（案）について事務局について願います。
事務局	・勝山高校の特別教棟に関して検討案を説明。 ①美術室は作品制作の関係上、中高別々の部屋を設ける。 ②音楽の授業は中高それぞれの部屋で可能だが、吹奏楽部としての活動場所も併せて検討。 ③書道室は高校の授業で必要になるが、礼法室を使用していないのでそこへ移動。 ④コンピュータ室は、高校で情報の授業があり、共通テストにも関係するため必要になるので、他の教室設置も考慮して2階に移動。 ⑤理科室は高校で物理・化学・生物の実験室を設置。講義室を中高共用の探究的要素を含んだ部屋とすることを検討。中学校では最低2つの実験室を設置。さらに中高共用の特別実験室の設置も検討。 ⑥調理室、被服室は授業時数が少ないため中高共用で使用。 ⑦技術室は中学校専用として設置。 1階は中学校が中心に使う部屋と共用部分もあるものづくり関係のフロア、2階は高校が中心に使う部屋として理科やコンピュータを中心に探究フロア、3階は中高が共有する部分もある芸術フロアのイメージとして考えている。

・これまでのワーキングチーム会議での意見抜粋（第3.4.5回）

部会長 ・各グループでワークショップを行いたい。部屋の配置の問題、中学生、高校生の動線上問題がないのか、各部屋の機能について、図の中に皆さんのアイディアを書き込みながら議論をしてほしい。

（各グループでワークショップ）

部会長 ・ご紹介をお願いしたい。

委員1 ・構造的に難しいという意見もいただいたが、例えば取り外しが可能なら、壁はある程度自由に動かす可動式の壁にすることで理科室が大きい空間として使うことができるというようにしておく、多様な授業形態に対応できるのではないかと。そういう意味では理科室と技術室はかたまりという点で捉えた方がいいのではないかと。先ほどの教科会で高校の教員と中学校の教員が近いところが一番のメリットであるという話があったが、一定の教科センター的なよく似た教科が近くに固まっているような構造になっている。どこかに小部屋を作るなりして、中学校の先生と高校の先生と一緒に話ができるような場所があるといい。中学校の校舎はいろんな業者から新しい斬新なものが出てくると思われるが、特別教棟の方は県の事業で、その辺りができるのかがよくわからない。どこかの業者が関わるので、複数の案を提示していただいて専門業者の斬新なデザインを聞いてみたいと感じた。

部会長 ・続いてこちらのチームをお願いしたい。

委員2 ・廊下を抜けるような構造になれば大きな部屋が作れるのでいいのではないかと。この辺りはどのくらい抜けるのかを調べるてもらおう。もう1つは動線の話がかなりあって、実際にメディアセンターとかで交流するのはもう当たり前になるのに教室の考え方で動線をそこまで分けなくてもいいのではないかと。という意見だった。

（新中学校校舎（案）について）

部会長 ・では、新中学校の校舎について4つの案があると聞いているので事務局をお願いしたい。

事務局 ・地下通路を通して玄関の位置、図書室と多目的ルームの位置を考えた案に新中学校の諸室を加味した案を説明。

・（検討A案3階建て）中学校の玄関を新校舎の勝高側（西側）につくる。

・（検討B案3階建て）中学校の玄関を勝高の玄関と背中合わせにつくる。

・（検討C案4階建て）中学校の玄関を勝高の玄関と背中合わせにつくる。

・（検討D案3階建て）中学校の玄関を新校舎のジオ側（東側）につくる。

地下通路の中を上足ラインと下足ラインに分けることを検討。

駐輪場や職員駐車場を検討。

・これまでのワーキングチーム会議での意見抜粋（第3.4.5回）

部会長 ・新中学校について4つの案が掲示されているので、皆さんで話を進めていただければと思う。

（各グループでワークショップ）

- 部会長 ・こちらの方からどんなアイデアが出てきたからご紹介をお願いしたい。
- 委員1 ・玄関2つは問題だということ。教室を向かい合わせにして5つの教室を壁をぬいてくっつけられるとホールになるのでいい。玄関を壊してしまって、玄関とこの上に多目的とメディアセンター、それもできるだけ正方形に近い形がいい。コロナのことを考えると相談室とかちよつとした部屋があると隔離ができる。保健室には入れられないので相談室を含めたそういう部屋を作ってもらえるといい。特別支援教室と相談室は近い方がいい。
- 部会長 ・玄関を1つにして作るのは両方に出ていた。多目的を上を持って行って正方形に近い方がいいのも出ていた。
- 委員2 ・玄関が2つのD案は難しい。B案の生徒玄関のところを上メディアセンターと広い空間がいい。子どもたちが上履きでジオアリーナに行けるのはいいのだが、例えば部活動の時に帰りはジオアリーナからバスに乗るという場合だと外履きを持っていかなくてはいけない。部活動から帰る子は一度戻る必要が出るかもしれない。4階建てが非常にいろんなことを満たしているが、4階は問題もあるので横の田を買収して八の字の2階がいいという意見もある。
- 部会長 ・新しい校舎なのでこれからいろいろ議論の余地があると思う。玄関は1つがいいということ、玄関の上にとにかく広いスペースを取ってできるだけ活動がしやすいスペースがほしい、特別支援とか配慮の必要な子どもたち部屋はこれからの時代にはかなり丁寧に織り込んでおかないといけないという意見があった。それでは、事務局をお返りする。
- 事務局 ・いろんな意見をいただき感謝。本日はここで終わりにしたい。

資料：新中学校像（案）

資料：検討A案3階建て（西側）

資料：検討B案3階建て（背中合わせ）

資料：検討C案4階建て（背中合わせ）

資料：検討D案3階建て（東側）

} ワーキングチーム会議の資料と同じ

参考資料. これまでのワーキングチーム会議での意見抜粋（第3.4.5回）